

地域おこし協力隊通信 (No. 10) 自然豊かな種子島～イカらず焦らず諦めず～

「種子島に来たからには、やりたいことをやり尽くす！」
 連休に大阪から遊びに来た友人の姿を見てびっくりしました。
 コロコロのキャリーケースにパンパンのリュックサック、海に入るウエットスーツに山登りの道具、リュックの両サイドには、釣り竿とストックが括り付けられています。
 「どんだけ遊ぶつもりなん？」
 そんなフル装備の友人が、海へ山へと走り回り迎えた最終日の朝、焼酎に浸った肝臓にムチ打ってイカ釣りに出掛けていきました。
 「どうせ釣れんやろ!」
 と布団の中から見送ります。
 そして2時間後、イカを捌いたことがない2人が台所に立ちつくします。
 「釣ったのはええけど…」
 釣られたイカを前に「まな板の鯉」状態。
 「どうしたらええねん?」
 刻々と種子島を出発する時間が迫る中、未知の部位に遭遇しながらの解体ショー。せっかく釣りあげたからには食べて帰りたい!でも時間がない!のドタバタ劇。慣れない皮むき作業に、焦り、焦らされ、腹が鳴り、やっ

とこのことでイカの刺身とご対面。
 「うまい!!」
 歯がかりが良くトロミがあつて味が濃厚。
 「そうだ、俺もイカ釣りをしよう!」
 という訳で後日早速、名人と呼び声高い方から竿とリールを頂きイカ釣りへ。何度も投げては巻きを繰り返しますが、釣り上げるのは隣のおっちゃんばかり、気が付けば、さつきまでの太陽が溶けた夕陽に変わり、ウミガメが目の前をゆつくりと通り過ぎて行きます。粘って馬毛島が見えなくなるまで竿を振りますが、今現在釣れたイカはゼロです。
 7月になりシーズンが終わろうとしています。焦れば焦るほど、釣りたいと思えば思うほど糸が切れて餌木(エギ)が飛んでいたり、根がかりしたりして、イラッとすると不思議と糸も絡まりコロコロも乱れます。
 タケンコ(竹の子)、アナゴ(貝)採りで学んだ「諦めない気持ち」を胸に、もう少しイカ釣りを頑張ってみようと思っています。
 (松田)

平均価格約 74 万円

種子島子牛せり

種子島子牛せり市が、6月20日・21日に種子島家畜市場でありました。
 朝方から大雨が降りしきり、開始時間が少し遅れるなどあいにくの天気でしたが、場内はそれをものともしない、人々と牛の熱気であふれていました。
 2日間で出場された頭数は675頭(本町257頭)で、平均価格は73万7千円と、前年同期並の価格となりました。



ちち 父の日に牛乳を贈ろう

酪農団体が牛乳消費拡大でPR



種子島酪農女性部が、6月13日に「父の日に牛乳を贈ろう」キャンペーンで町長室を訪問し、町長へ牛乳を贈りました。
 これは、牛乳のイメージ向上と消費拡大のアピールの一環として父の日(6月19日)を前に、父と乳の語呂合わせで毎年行っているもので、牛乳の消費拡大を期待し、関係者みんなで乾杯をしました。